国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局
神戸視力障害センター

第77号
令和4年
4月1日発行

センターだより

令和3年度 就労移行支援（養成施設）卒業式

光友会から卒業生へ贈る言葉

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今年度も、ウイルスにより世界中の様々な活動に、制限がついたり、国家試験も新しく変わったりと精神的にも体力的にも大変だったと思います。

しかし、先輩方の教室からは、よく楽しそうな笑い声が聞こえていました。

私達は来年度から、先輩方が居ない寂しさを感じない様、少しでも先輩方に近づけていける様に、努力し、邁進し、明るい雰囲気を受け継いでいきたいと思います。

卒業生の皆さんは、それぞれの夢に向かって、仕事に励まれることと思います。昨今の情勢により、様々な困難や壁に向き合うこともあるかもしれませんが、神戸センターでの経験を生かし、きっと乗り越えていってくださるのではないかと思います。

どうか、お体には気をつけて下さい。皆さんの益々のご活躍を心から応援しています。

本当にご卒業おめでとうございます！

もくじ

P2 卒業生の言葉
P3 専門3年担当職員から卒業生へ贈る言葉
P4 便利グッズ紹介
P5 利用者（自立訓練）の声
P6 見学説明会
アーチェリーの授業
P7 研修会におけるZoomの活用について
P8 利用者募集

発行 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局　神戸視力障害センター
〒651-2134　神戸市西区曙町 1070　電話（078）923-4670　FAX（078）928-4122
ホームページ：http://www.rehab.go.jp/kobe/　E-mail：kvrc-info@mhlw.go.jp

卒業生の言葉

最初は先が長いなと思っていました。
振り返ればあっという間でした。
学習の理解が遅く先生方に心配とご迷惑をかけてしまいました。
教官、職員の方々、お世話になりました。ありがとうございました。

卒業できました。先生方、センターの職員の皆さん、そしてクラスメイトにありがとう。
卒業後も色々と勉強すると思いますが、センターでの学生生活において自分の人生でこれほど勉強に取り組んだ事はありませんでした。
働いていた時は、学生は楽でいいなと良く思っていましたが、楽ではなかった。
ですが、楽しくもありました。
たくさんの人に支えていただき、感謝しかありません。３年間ありがとうございました。

国家試験を控えた師走の運動場の横のベンチ、ふと思う「この運動場の外周を何周したんだろう（笑）」
三年前、窮地に追い詰められた私はセンターに入学した。不安がいっぱいで長い３年間になるなと思っていました。
しかし、その心配は半年も経つと「希望」と「夢」に変わっていました。
たくさんの人達に支えられ、福祉に守られ、「感謝！感謝」です。
この気持ちを忘れずに歩んでいこうと思います。「君とつくる未来が楽しみです。」

長い間、お世話になりました。
最初は慣れない勉強を行い、勉強が嫌いな私でも先生方や職員さんたちの支えがあり、今では勉強がとても楽しくなりました。
私はほぼ全盲に近い状態ですが、クラスメイトや他の学年の方々と関わりで、見えなくても実技や座学の勉強、休憩時間での楽しい会話などで充実した生活を送れました。
この充実した気持ちを持ちながら、これからも頑張って自分の行く道へと進んでいきたいと思います。

３年間何気ないきっかけで養成施設に入所しました。
不器用で人と接するのが苦手でしたが仲間に支えられ卒業に至りました。
これから一歩ずつあきらめずに前に進んでいきたいと思います。
三年間ありがとうございました。

専門3年担当職員から卒業生へ贈る言葉

皆さん、ご卒業おめでとうございます。沢山の困難を努力で乗り越えて来られたことに敬意を表します。

卒業は英語で Graduation です。その語源は諸説ありますが、その一つはラテン語の gradus に由来するといわれています。gradus は階段を意味し、動詞は階段を上るとなります。

卒業というと終わりのイメージが強いですが、次のステップへのスタート、始まりの意味が含まれています。

同じ教室で皆さんと学ぶことは、もうありませんが、これからは同じ東洋医学を学ぶ仲間として、共に階段を上り続けましょう。

皆さんが一歩ずつ上り続けた先に素晴らしい世界が広がることを信じています。

教務課　水沼　健生

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんと初めてお会いしたのは昨年の春でした。初めてお会いしたときから今日まで皆さんは変わらず、とても明るく、暖かい印象です。

また、学習内容を互いに確認し合ったり、励まし、助け合っている皆さんをみて、協力し合いながら真剣に取り組む姿勢を肌で感じておりました。格好良かったです。きっとお仕事もクライアントの方々に寄り添い、真摯に向き合っていく姿勢をもって業務に臨まれるのだと思います。

１年間という短い期間ではありましたが、皆さんと笑い合い、同じ時間を過ごせたことを誇りに思います。このたびは本当にご卒業おめでとうございます。

支援課　市川　喜章

便利グッズ紹介

近年の ICT 技術の進歩はめざましく障害を補い、不便を軽減する様々な補助具やパソコンソフト、スマホアプリなどが登場しています。

ここ数年注目されているこれらの器機やアプリなどについて簡単にご紹介します。

【OrCam MyReader】

印刷されたテキストなどを直感的な指さしゼスチャーで即座に読み上げ始めるウェアラブル補助テクノロジーの製品です。眼鏡の蔓に装着することができ、使い捨てライターほどの小型な製品です。

距離が近すぎると全体がカメラに収まらず、一部分しか読まない場合があるので、カメラの向きと距離は少し慣れが必要かも知れません。当センターでも体験していただけます。

【HOYA MW10】（暗所視支援眼鏡）

夜盲の症状があるかたの暗所視を支援するために開発されたウェアラブル器機です。コントローラーとケーブルで繋がったゴーグルを装着して使います。

保有視覚機能にもよりますが、夜間でも鮮明なカラー映像で周囲の様子を見ることができます。反面、距離感覚がつかみ難かったり、状況に応じた明るさや倍率のコントロールも必要です。

当センターに HOYA のデモ機を貸し出していただいていますので、体験していただけます。

【Sullivan+】

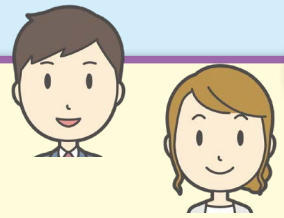
スマホのアプリで、視覚障害者の情報アクセシビリティを高めてくれます。AI モード、文字認識モード、イメージ描写モードがあります。

【Navilens】

Navilens は情報が埋め込まれたタグ（QR コードに似た四角形のカラフルな図柄）とそれを読み取るスマホアプリからなります。スペインやアメリカでは普及しつつあるようです。日本でも無料版が公開され、施設内を移動する際の情報提供などの活用が期待されています。

写真①　MW10

写真②　OrCam MyReader



利用者の声
（自立訓練）

自立訓練（機能訓練）男性

2020 年6月の初め人生が大きく変わりました。ある日、目の状態がおかしいと思い近くの眼科へ行ったところ、大きな病院で診てもらった方がいいと言われました。

病院で診てもらったら、視力が大きく改善することはないと言われました。長らく続けていた仕事を辞めざるを得なくなりました。

それからしばらく通院していると、病院の先生から身体障害者手帳と神戸視力障害センターのことを聞きました。相談支援事業所を紹介してもらい、神戸視力障害センターに行くことを決めました。

2021 年9月6日、神戸視力障害センターの利用が始まりました。最初は何も分からず、これからどうなるのか見当もつきませんでしたし、一から始めることばかりなので、何もできず自分が情けなくなりました。

今更ながら目が見えにくいのが、生活にこれほど影響するとは思わなかったです。

それでも何日か続けるうちに、訓練も楽しくなってきて、興味が湧いてきました。パソコンはほとんど触ったことがなかったのですが、音声で操作を案内してくれるので、分かりやすく、徐々に操作も慣れていきました。

その他の訓練も慣れるのに時間がかかってしまい、落ち込んでばかりでしたが、職員の方々から丁寧に教えていただき徐々に自信がついてきました。

訓練はマンツーマン方式なので、納得して次の課題に進めるところもいいと思いました。

寮生活は多くの方が利用されており、正直驚きましたが、皆さんの頑張っている姿を見て自分も頑張ろうと思いました。

最後に、センターを利用するまでたくさん悩み落ち込むこともありましたが、今では自分の将来について少し前向きに考えられるようになりました。これからも一生懸命訓練に取り組んでいきたいと思います。

自立訓練（機能訓練）女性

当初は、重度の視覚障害しか施設の利用が出来ないと諦めてしまい、利用に向けたスタートが2年も遅れてしまいました。

施設について詳しく知るためには、電話で直接聞けば良かったと思います。

若い頃から造形が好きで、いつか学べたらと憧れていた「陶芸」が、このセンターでできることを知り、交通事故で見えなくなった私に初めて希望が持てました。

先生方は、丁寧で優しく、頸椎が痛むため同じ姿勢が出来ない私に、色々な工夫をしながら楽しく自由に作品を作成させていただいています。

月に2日の自立訓練ですが、久しぶりの社会参加で心身ともに晴れやかな気分になって来ています。

また、パソコンの授業では朗らかな先生が寄り添って教えて下さる言葉かけに励まされ涙が出そうになったこともありました。

サピエ図書館の利用方法がわかりませんでしたが、iPad の設定から教えて頂き読みたかった月刊誌も聞けるようになり、愉しみが増えました。

体育では、健常ではする機会が無かったであろう、アーチェリー、やり投げ、ジャベリックスローなどを子供の様にトキメキながら体験し、競技参加が目標になっています。

ここの自立訓練の経験を生かし社会復帰出来るように、職業訓練校でも頑張りたいと思います。

見学説明会について

令和３年見学説明会を開催しました。

10 月 20 日（水）に見学説明会を開催し、５組 10 名の参加がありました。見学説明会は普段の授業や訓練を公開することにより、当センターの理解を深めていただくものです。

当日は解剖学とあん摩実技の授業、PC 操作訓練を公開すると同時に、普段の授業や訓練で使用する拡大読書器やルーペ、デイジー機器などにも直接触れていただきました。

ご参加の皆さんが授業や訓練の内容について熱心に耳を傾けている姿が印象的でした。また、実際の授業や訓練の様子に触れることで、普段の神戸センターをご理解いただけたように思います。

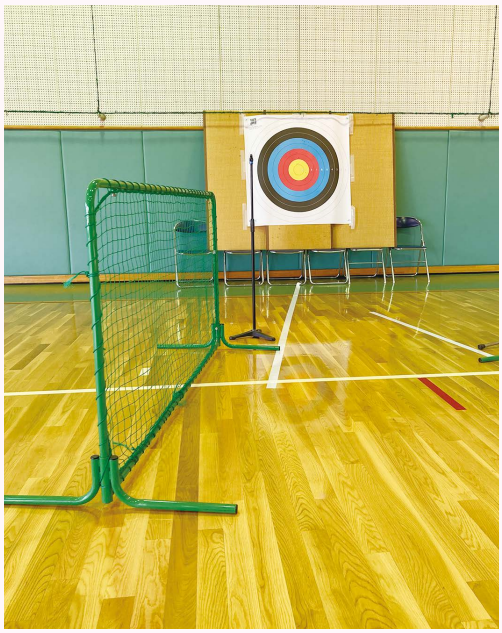
当センターでは見学説明会以外の平日にも、利用を検討されている方の施設見学を行っています。ご希望のある方は当センター支援課までご連絡ください。

体育の授業（アーチェリー）

東京オリンピックで日本代表選手がメダルを獲得した種目の一つにアーチェリーがあります。観戦した方も多いのではないでしょうか。

パラリンピックでもアーチェリーは行われていますが、視覚障害者は競技の対象になっていません。しかし、世界アーチェリー連盟パラアーチェリーの規程には、視覚障害者のルールがあります。

当センターの体育授業でアーチェリーを行っています。パラアーチェリーのルールとは違うのですが、当センターの方法をご紹介します。



まず、的の真下で電子メトロノームを鳴らし大まかな方向を確認します。そして、全盲の方は防球フェンスを背側に当てて身体の方向を決め、マイクスタンドに弓を持つ手の甲を当て腕の方向と高さを決めます。弱視の方は床に的までのラインを引くことで方向の確認をしやすくしています。(写真参考)

最初は３～５ｍ程度の距離で実施して、少しずつ距離を延ばします。また、的に矢が当たったことがわかるように、風船を的に貼り付けます。同様の方法でスポーツ吹き矢も楽しんでいます。

研修会におけるZoomの活用について

当センターでは、これまでは対面での研修会が多い状況でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、今年度は Zoom による研修会が主流となりました。

そのため今年度に実施した、Zoom を活用した研修会等について、報告させていただきたいと思います。

まず、外部講師に Zoom でお願いした研修としては、一般社団法人ハラル・ジャパン協会の佐久間朋宏氏による、ハラル（イスラム）研修がありました。こちらは、当センターをご利用いただく方々が、近年は国際色が豊かになってきているため、職員研修の一環として実施したものです。イスラム圏の食生活を中心とした文化等を学ぶことにより、民族の多様性に触れ、理解を深めることができました。

他にも、神戸市西区自立支援協議会の身体障害者ネットワークで、加盟事業所の施設紹介を行う際に、Zoom による Web 見学会を実施し、当センターもオンラインで見学いただくことができました。新型コロナウイルスの感染拡大がなければ、来所していただいての施設見学となっていたと思いますので、見学に Zoom を活用するという、新たな選択肢を加えることができたという点では、コロナ禍でのメリットもあったのではないかと思います。

センター外部や地域との連携に活用するだけでなく、勿論、自立支援局や内部での研修（ロービジョンの復職事例を議題とした研修会、ロービジョンについての勉強会）でも多数利用しました。また、臨床心理士の先生による利用者のカウンセリングについても、Zoom を活用しています。

直接対面しての会議や研修会は、オンラインではできない個別の情報交換や顔つなぎなど圧倒的に意義がありますが、Zoom も双方に環境が整っていれば、有効なコミュニケーション手段のひとつであることを、改めて認識しました。新型コロナウイルスの感染については、まだまだ不安な状況であるため、これからも Zoom を有効活用していければと思います。

利用者募集

視覚に障害のある方を対象として、就労移行支援（養成施設）、自立訓練（機能訓練）のサービスを提供しています。

就労移行支援（養成施設）は３年制で、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家資格取得のための職業訓練を行います。資格取得後の進路は、高齢者施設や一般企業のヘルスキーパー（企業内理療師）等への就職、治療院の開業、進学等です。

自立訓練（機能訓練）では、歩行、パソコン、タブレット端末、録音再生機器、視覚的補助具（ルーペ、単眼鏡、拡大読書器、遮光レンズ）、日常生活に関する訓練（例：調理）等を行います。訓練を修了された方の中には、当センターの就労移行支援（養成施設）に進む方もいます。

利用を希望される方は、まず当センターにご相談ください。来所による相談や見学も受け付けています。なお、利用申込に必要な書類は当センターから取り寄せていただくか、ホームページからも印刷できます。利用に関する相談以外に、生活に役立つ道具のご紹介、他の施設やサービス等のご案内もいたしますので、お気軽にご連絡ください。

就労移行支援（養成施設）

対　象　視覚に障害のある方で、施設利用について市区町村から「障害福祉サービス受給者証」の交付を受けた、次の①または②に該当する 18 歳以上の方。
①学校教育法第 90 条第１項の大学に入学することができる方。
②当センターが実施する「個別利用資格審査」によって、高等学校を卒業した者に準ずる学力があると認められた方

募集人員　20 名（あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科専門課程）

利用開始　令和５年４月上旬

利用期間　３年間

利用方法　通所またはセンター内宿舎利用（宿舎は休日も利用可）

受付期間　令和４年８月頃より（お問い合わせ下さい）

自立訓練（機能訓練）

対　象　視覚に障害のある方で、施設利用について市区町村から「障害福祉サービス受給者証」の交付を受けた方

定　員　10 名

訓練内容　歩行　パソコン　点字　ロービジョン　日常　調理　スポーツ　陶芸　レクリエーションなど

利用期間　個人に応じる

利用方法　通所またはセンター内宿舎利用、訪問訓練（※応相談）

備　考　利用申込みや利用開始時期は随時

センター見学のご案内

当センターでは、随時見学を受け入れております。
「センターの利用を考えたいけど不安」というご本人やそのご家族、「紹介したいけど、よく分からない」というお知り合いの方や福祉関係者の皆様など、授業や訓練の様子、宿舎など、見学できます。お気軽にお越しください。

見学が可能な時間　平日（月曜日～金曜日）　９時 30 分～ 16 時 30 分まで **（要予約）**
電話：078-923-4670　見学をお考えの方はご予約ください。

連絡先
神戸視力障害センター　支援課
電話（078）923-4670　FAX（078）928-4122
ホームページ : http://www.rehab.go.jp/kobe/　E-mail : soudan-kobe@mhlw.go.jp